

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0771100187		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム今泉1階		
所在地	田村市船引町今泉字台の前11-2		
自己評価作成日	平成21年7月15日	評価結果市町村受理日	平成21年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成21年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々笑顔のある生活を送る。 ①おいしい食事を提供する。 ②いつもかわらない対応をする。 ③相手をおもいやる心で接する。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東京センター方式を活用した利用者の意向把握が十分に行われており、趣味や得意分野を活かせる場作りに努めている。ハモニカ演奏が得意な方を中心に歌唱を日課に取り入れたり、塗り絵や編物等の趣味を持つ利用者には職員も一緒にお手伝いをするなどして支援している。法人では職種、経験等に応じた研修会を企画し、職員の資格取得に向けての支援を行っており、職員も資格取得や業務に意欲的に取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々とのふれあいを理念にかかげ、毎日申し送り後全員で唱和し、共有している。地域行事等にも積極的に参加している。	法人の理念のほかに事業所独自の地域密着型サービスを踏まえた理念を各ユニットごとに作成しており、毎朝全職員で理念を唱和し、日常のケアに反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、『今泉だより』を毎月回覧して頂き、ホームで行う事にも参加して頂いている。	地域の行事(今泉ふれあい「お茶会」や地域の敬老会、草刈等)に参加したり、ボランティアの受入を行い交流している。近隣住民との交流も徐々に深まってきている。また、地域住民からの認知症に関する相談等も受け付けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム内で行う行事には、近所に直接訪問し参加を呼びかけ、入居者様の状況を見ていただき理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。入居者ご家族、地域包括、今泉区長、民生委員の方の参加が得られており意見等を頂き、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催されているが、町内会、民生委員等地域の代表者および家族の参加が少ない。内容は事業所の行事や事故の報告等であり、参加者からは意見や提言が出されており、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は地域の理解や支援を得るための重要な会議であるので、多くの委員が参加できるよう日程調整されることが望ましい。また、委員の代理出席等についても考慮されると良いと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者や推進会議メンバーより、社会資源についての情報提供をいただき、活用につなげることができてきている。	地域包括センターの担当者が運営推進会議に参加しており、市からの情報や事業所の実情等を相互に把握し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルにそって全ての職員に身体拘束を理解してもらい安全なケアを提供している。虐待防止マニュアルを閲覧しやすい所に置き、確認しサービスの提供をしている。	全職員が身体拘束をしないケアの実践に努めている。日中は玄関の施錠はせず、利用者が不穏な状態のときも職員の見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルに沿って虐待にあたるような行為がないかを確認しながら介護サービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者のみの理解と活用にとどまっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の場合家族等に、その都度説明を行い同意を得て、理解や納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意見や要望等について、毎月行われている懇談会にて意見を聞き、イベント等に取り入れたりしている。又、家族の方に運営推進会議への参加又、議事録を送付している。	家族の面会時や状況報告の折に家族の意見や要望を聞き取り、運営に反映させている。利用者の意見は月例懇談会(利用者職員との懇談会)等で把握し、日常のケア及びイベント等に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は不定期ではあるが毎月1回スタッフ会議を開き意見の取り入れ、職員の個人面談も行っており苦情、悩み等を聞き一緒に解決できるようにしている。	毎月のスタッフ会議等で職員の意見や提案等を出し合い、管理者は法人代表者に報告し、運営に反映させる体制となっている。また、管理者の個人面談等から各職員の意見を集約し、課題解決を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料水準については、本社が管理しており、職員の労働時間について時間外が発生した場合はその都度時間外届の提出してもらい、職員等の意見は、スタッフ会議時間き出したり、定期的個人面談等で聞いたりし本社へ意見提出している。職場環境は人員不足時各階で調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福島県グループホーム連絡協議会に入会し、職員の能力等に応じて、職場内外の研修を受けてい技術や知識を身につけて行く事を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県グループホーム連絡協議会に入会し、職場内外の研修を受けてい技術や知識を身につけると共に交流する機会作り、サービスの質の向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心身の状態や本人の思いに向き合い職員が本人に受けられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めているものを理解し事業所としては、どのような対応ができていくか事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思い状況等を確認し改善に向けた支援の提案を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスをつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様との暮らしの中で家族のように共に支えあう関係作りに配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いを実感し利用者に関する情報の共有に努めることで家族と協力してのケアにつながるよう関係作りを見つけ家族と話し合いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活習慣を把握しなるべく入居前の生活場面づくりと自宅周辺との関わりの継続を本人の意思や思を聞き実行している。	地域密着型サービス事業所以前の開設であるため、利用者の半数が町外者であり、馴染みの人や場所との関係はとりにくい状況であるが、町内の利用者については馴染みの関係の支援に努めており、利用者の知人等の訪問がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で共有スペースにおいて過ごすような機会に職員が仲介に入ったりしてお互いに関わりが持ちやすい様、雰囲気作りに心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居される際に、今後も何か困った事があれば相談にのるという事を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月利用者様と懇談会をし思いや、意向、希望など取り入れられている。又、日々の関わりの中で声掛けし把握に努めている。何気ない会話の中から真意を確認するようにしている。意志の疎通が困難な方にはご家族から情報を得るようにしている。	センター方式のシートを利用し、月例の利用者との懇談会や日常生活の中から、意向や希望を把握している。また、家族等からも情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人やご家族などから聴き取り暮らしの情報に記入している。入居後も、折に触れご本人、ご家族からどんな生活していたか聴いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者ひとり一人の生活リズムを理解し、毎日の生活の中での関わりの中からできる事を見つけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者やご家族から思いや意見を聞きケアプランに反映させるようにしている。入居者、ご家族の思いや要望をケース会議等で活かし、その人らしい生活ができるようにしている。	利用者の日々の生活から状態を把握し、ケース会議で検討を重ねケアプランに反映させている。毎月のケアカンファレンスでは利用者の状況や担当者の気づき、職員と家族の意見を踏まえ、利用者の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し食事量、排泄等身体状況及び、日々の生活の様子を記録し、申し送り等にて情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況に応じて受診の送迎送迎や入院時に必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の際に地域包括支援センターの職員や民生委員の協力を得ながら、地域のボランティアを利用してホームに来て頂き一緒に唄を歌ったり、外出して地域行事に参加して楽しい時間を一緒に過ごす事できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が馴染みのある医師に受診できるようスタッフが一緒に病院に付き添って支援しています。	利用者のかかりつけ医の受診を支援しており、現在は7箇所のかかりつけ医と連携している。受診には家族の対応を基本としているが、利用者及びその家族の希望により、職員が対応している。また、往診の対応をしているかかりつけ医もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックにより健康状態の把握に努め、健康状態の変化について職員間で情報の共有をして医療機関との連帯につとめている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時には、身辺整理(洗濯物を取りに行ったり)をしに病院へ行き様子を診に行き、医療機関とも情報の交換をはかり退院に向け何度か打ち合わせをして関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に家族に重度化、終末期についてや意向を確認しながらおこなっており、職員全員で率直に話し合い、家族や医師と連携を対応の共有を図っている。	事業所として重度化や終末期の指針を作成し、家族等へ説明し確認書により家族の意向を確認している。利用者に関する情報は職員や関係者全体で共有し、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルにそっておこなっている。又、応急手当、普通救命救急講習を全員が受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い利用者様の状態を踏まえ避難誘導が出来る様にしている。又、地域の方協力して頂けるよう今泉自衛消防設立、区長会議時訓練の参加をお願いしている。又、災害の発生に備えて、非常食料や、飲料水、簡易トイレ等の備品も準備している。	年2回避難訓練を実施しており、1回は消防署の指導の下で実施している。訓練時には地域からの支援を得られるよう自衛消防を設立し働きかけをしている。また、災害時の食料品・飲料水等も備蓄し、簡易トイレ等も備えている。	あらゆる場面を想定し、できる限り多く避難訓練を実施されるとともに、地域消防団との連携を図られることを望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄介助の際にはプライバシーを配慮し、声掛けを本人のみ聞こえるよう声掛けし、プライバシーを確保できるよう心がけている。自室での介助の際にはカーテンや、戸をしめるなどの対応をしている。	全室にトイレが設置され、排泄時にはカーテンを利用し、プライバシーの保護に努めている。また、声かけは利用者の耳元で行い、利用者の人権を尊重する対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、歌や会話の好きな利用者様、ゲームや飲み物についても自己決定できる様な場面を作り、本人の意志の尊重をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れはあるが、その時の本人の気持ちを尊重して、個人のペースにそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の天候をふまえ、本人の好みの服を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	本人に合ったペースに食事ができる様に見守りし、会話をしながら一緒に食事をとっている。又、畑の野菜の収穫も一緒に行っている。	配食サービスを利用しているが、施設内で栽培した野菜等の活用、利用者の希望、行事食等によっては、事業所独自の献立にしている。利用者と職員が一緒に食卓を囲み、味付け等を話題にしながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立にてカロリー計算されている為、バランスを良く、摂取できている。水分量も記録されており、水分の摂取量の少ない場合、ゼリー等で工夫し確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けにて利用者様の習慣となり、本人の力に応じて口腔ケアをしていただけるよう声掛け、見守りしている。できない方は職員が義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けをし、気持ち良くトイレで排泄できる様にしている。	トイレでの排泄を基本とし、職員がトイレ誘導のケアを行い、入所時オムツを使用していたが、オムツが取れた利用者もおり、改善されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活チェック表に記録し、便秘にならないように飲食物の工夫で乳製品の取り入れや、オリゴ糖の使用などで予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様その日の希望を確認し入っている。又、時間帯についても習慣となった入浴時間に近い時間帯に入浴支援している。	利用者の希望により入浴の支援をしており、毎日入浴する利用者もいる。入浴拒否者はいないが、週2回は入浴されるよう支援している。また、菖蒲湯・ゆず湯等で季節を感じてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に添い、自由に休息し、安心して気持ち良く眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬、又は、主治医の指示について、記録し全職員が確認し理解している。配薬も複数の職員にて確認、服薬の際は、手渡し飲み込むまで確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意な事を活かし一人ひとりの力を発揮してもらえる様、掃除や、洗濯物たたみ、洗濯物干しなどをして頂き、感謝の気持ちを伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	心身の状態に応じて、気分転換に外出の声掛けなどし本人の希望に応じた外出をしている。	利用者の心身の状態を把握し、外出の声掛けをし、本人の希望に応じ散歩や買物の支援をしている。また、事業所では外出の機会を多く企画し実施している。天気の良い日等にはその日に予定を立て、ドライブ等で季節ごとの自然を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ちょっとした買い物をする事で楽しめる人もおられるので、本人や家族の意向、本人の希望によりお金を使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等で家族や大切な人との関係をつなぐ重要な手段なので一人ひとりの希望に応じて外部との交流を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音、ご飯のたける臭いなど生活感を感じて頂ける工夫をしている。又ゆず湯、しょうぶ湯、お彼岸など季節感を意識的に取り入れる様にしている。	共用空間は広く、テーブルやソファが機能的に配置され、畳のコーナーは季節によっては掘り炬燵となり、利用者が思い思いの場所で過ごせるように配慮されている。また、利用者の特技を活かした歌・楽器演奏・絵画等を披露(発表)する場ともなっており、利用者の心地よい空間の演出に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファ、テーブルを置き一人で過ごしたり、仲の良い利用者様同士でくつろげるスペースをつくっている。和室にはこたつもあり好きな所で過ごす事ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	ダンスやイス以外にもそれぞれ利用者様の好みやなじみの物など生活スタイルに合わせて用意、写真や使い慣れた日用品が居室に持ち込まれて利用者様の居心地の良さに配慮している。	居室は広く明るい。各部屋にトイレが設置されているが、匂いはなく清潔である。排泄時の安心感とプライバシーが守られている。持ち込み家具等は制限されず、各部屋とも個性的で居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に合わせて、浴室やトイレ、廊下、居室など居住環境が適しているか見直し、安全確保を自立への配慮をしている。		

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム 今泉

記入担当者名 石田 直樹

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。